令和２年度（2020 年度）学校評価

北海道枝幸高等学校長　　深　澤　　健

1　今年度の重点目標

⑴　自分で考え、主体的に行動し、経験を生かす力を養う。 ⑵　学ぶ意欲を持ち、自ら学びの質を高めていく力を養う。 ⑶　自己を鍛え、たくましく生きる力を養う。 ⑷　互いの違いを認め、思いやりを持ち、ともに成長する力を養う。 ⑸　地域を愛し、日本と世界の文化や歴史を深く学び、社会の平和と発展に貢献する力を養う。 ⑹　教職員個々の力量形成を図るとともに、学校の組織的実践力（学校力）を養う。

2　自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
めざす生徒像 めざす学校像	コロナウイルス感染拡大防止のため各部活動大会や学校祭の中止など例年とは異なる教育活動になった。制限された活動のなかで、町から貸与されたタブレットが本格的に運用され北海道でも最先端の授業を行った。ホームページなどで広く配信はしてきたが、保護者や地域の方々が学校に来る機会がほとんどなく外へのアピールを強めていく必要がある。	・コロナ禍での教育は今まで考えられない事態であった。現在は zoom だけではなく多くのアプリが開発されている。先生方も学習し、用途に応じて有効に利用して欲しい。 ・枝高の生徒は最近輝いている（充実している）ように感じる。
改善方策	⑴ 生徒一人ひとりの適性に応じた学習指導、進路指導の充実を図るために、授業改善の取組や学習指導と評価、生徒理解のための研修の一層の充実を図り、教職員の資質能力の向上に努める。 ⑵ 生徒に望ましい将来像を持たせながら、地域から信頼される将来の社会人・職業人としての資質・能力を育成するために、より地域の実態や保護者の要望を踏まえたビジョンを共有し、計画的かつ継続的な教育活動を推進する。	
家庭・地域との連携	⑴ ホームページのアクセス数は１日平均約 430 件であり昨年度より増加している。引き続き学校通信、各紙報道を併せて活用し、適切な広報に継続して努める。 ⑵ コロナの関係もあり生徒保護者向け一斉メールが有効に機能した。生徒募集の観点からもより一層の広報活動が必要であると痛感した。	・かなりの方々がホームページを閲覧しているということで継続して情報発信して欲しい。 ・社会性を身につけていくために、地域との関わりをもっと増やしていくべき。様々な世代の人、小学生や幼稚園保育園の園児等との交流をすすめて欲しい。インターンシップだけではなく日常的な取組を求めたい。
改善方策	⑴ ホームページのタイムリーな更新。生徒の状況や保護者説明会での報告などを印刷物の活用と併せて行うとともに、見やすさなどに配慮し効果的な情報発信を継続して行う。 ⑵ 地域の教育ニーズを把握しながら、社会に開かれた教育課程の実現に向け、保護者と地域が枝幸高校応援団として生徒を支援して頂ける力になって頂けるよう、信頼に値する教育活動と引き続きいての協力を依頼する。 ⑶行事後の懇親会、生徒の様子の連絡などの日常的な情報交換の機会を増やし、保護者と学校との連携の必要性を認識してもらうよう努める。また、教職員も地域の一員であるという意識をもち、催事への参加を行っていきたい。	

<table>
<tr><th>評価項目</th><th>自己評価の結果</th><th>学校関係者評価の結果</th></tr>
<tr><td>学習指導</td><td>⑴ 保護者、教員の評価は概ね良好と考えられる。特に」保護者において「家庭での学習習慣の確立」「意欲を引き出し、能力を身につけさせる学習指導」についての評価が大きく上がったのは非常に励みになる。
⑵ 生徒アンケートの「家庭学習指導」、「興味関心に合わせた授業の工夫」は共に、３学年の否定的回答が多いことを鑑み、進路目標の醸成と具体的な取組（研究授業の年度計画など）についての見直しと改善実施の必要がある。一方で、タブレットの活用により、前年度より向上しており、生徒個々における達成度向上と、学校側の生徒状況や理解度の把握・管理を的確かつ平易にできるよう取り組んでいく。</td><td>・ICT について、機器の家庭での利用はスマホ、IPad では画面が小さく集中できにくい面もあるので例えばテレビへの出力方法など ICT の使い方のスキルをあげ、生徒や家庭への発信を積極的に行って欲しい。
・ICT 活用では地方の学校でここまで取り組めている例は少ないのではないか、素晴らしいと感じている。公営塾との連携にも非常に期待している。３年間で結果が出ると期待している。
・町の人たちの反応は「タブレットの導入」は町に浸透していると思う。実際授業で「プレゼンテーション」を見て、生徒たちのタブレットの使い方に感心した。まさしく今の時代のカタチなのだと感じ、そのように指導されていると感じた。ここから先、どのようなことが必要になるのか先生方も学ぶ必要があり先生方も大変であると感じる。</td></tr>
<tr><td>改善方策</td><td colspan="2">⑴ 生徒の学習状況（内容、時間、方法等）や学力、進路希望を適切に把握し、具体的な学習方法と課題を提示しながら、校内に常駐している「公営塾」との連携を深める。個に応じた丁寧な学習指導に努める。タブレット端末を有効活用することで、課題ギャップの補てんを実践する。
⑵教員による先進かつ効果的な取組の共有機会（研究授業）や少人数グループでの相互参観と合評の実施、校外への研修会参加と成果の共有等、授業の質的向上は継続して実践する。</td></tr>
<tr><td>生徒指導</td><td>⑴「生徒の部活動や行事、ボランティアへの主体的取組」については、コロナの影響で予定していた行事を行うことができず、教員評価は非常に低く、生徒自身の主体性とそれを引き出す教員のしかけを来年度は積極的にすすめる。
⑵ 指導についての軽重の差、統一基準へのブレを感じさせる指導が生じ、平等感・公平感を欠くという指摘があった。</td><td>・他の町で高校生が日常的にアルバイトしているのを見た。高校生の元気なはつらつとした雰囲気が町に影響を与えているのを見て良いなと感じた。
・生徒のアンケートを見て指導に傾斜があるように感じる。</td></tr>
<tr><td>改善方策</td><td colspan="2">⑴ 生徒が課題意識を持って取り組める活動の充実を図るため、他者を思いやれる協調性のある集団と、人間関係づくりへのメッセージ等、生徒主体の活動場面を設定・計画していく。ボランティア活動への参加も促していく。
⑵ 人間関係に係る生徒の変化を見逃さないよう、校内での教育相談機能を強化し、保健室との連携や役割分担、保護者との情報共有を密にして、問題行動の未然防止、心のケアの充実を図ることで、強い信頼性を構築できるよう意識していく。
⑶ 生徒指導の方針と基準を明確にし、分掌・学年・教員個々において統一した指導を行うことで、非違行為や不適切な言動に毅然と対処し、保護者の理解と協力を得ながら、学校としての説明責任を果たせるような体制づくりを見直す。また例えば生徒会を主軸として、生徒が主体的にルールを守る目線合わせの機会を年間の節目ごとに設定し、自己指導力の高まりを実感できる場面を作っていく。</td></tr>
</table>

<table>
<tr><td>進路指導</td><td>(1) 進路講習や面接指導について、就職、進学ともに昨年度から引き続いて一定の評価を得られていると考えられる。特に教員の評価では「学年段階に応じた進路指導」、「就職希望者に対する指導」について高い評価である。分掌を始めとして、学年そして全体としての目線合わせと意識付けが奏功した結果と見ることができる。
(2)公営塾との連携、位置づけに関して多くの質問等があり、協働体制やシステムづくりが急務である。
(3) タブレットを使い、家庭にいてもできる保護者面談など既存のかたちにとらわれない進路指導を模索していきたい。</td><td>・町の話題では進学率の問題もある。また、就職に対するケアなども求められている。
・タブレットを使った三者面談は斬新なアイディアで素晴らしい。是非実現させて欲しい。</td></tr>
<tr><td>改善方策</td><td colspan="2">(1) 教員と生徒、保護者さらに「公営塾」が、生徒の希望進路を叶えるために必要な力を常に共有し、今年度整備してきた必要な実力養成を見据えた指導（講習、面接、小論文等）の計画・実施を改善していく。生徒個々の進捗を全体共有し、どの学年の誰がどこを希望しているかを把握し、時機を見たサポートの場面を確実なものとする。
(2) 学年による生徒の発達段階に応じて、進路選択にあたっての興味と可能性を把握し、あらゆる視野から自己実現を図れる進路指導を行う。そのためには、日常の学習活動を軸に、進路学習や面談を通じたガイダンス機能の充実を図っていく。</td></tr>
</table>